オーストラリア連邦上下両院議長の招待による同国公式訪問及び
各国の東日本大震災への支援に対する謝意表明等のための参議院副議長一行報告書

団　長	参議院副議長	尾辻	秀久
副団長	参議院議員	小川	敏夫
	同	川崎	稔
	同	川合	孝典
	同	長沢	広明
	同	水野	賢一
同　行	議事部長	吉岡	拓
	委員部議院運営課長	松本	智和
	副議長秘書	有薗	裕章
	参事	栗原	理恵
	同	真先	剛史

一、訪問の概要

今回の訪問は、オーストラリア連邦上下両院議長の招待により同国を公式訪問するとともに、さきの東日本大震災に際し各国から我が国に寄せられた迅速かつ手厚い支援に対して、国民を代表する立場から関係各方面に謝意を表することを目的とするものであった。

尾辻副議長は、平成二十三年十月二日に出発、同月三日からニュージーランドを訪問して、クライストチャーチの地震現場を訪れるとともに、国会議長・副議長、ニュージーランド・日本友好議員連盟会長等と会談した。また、同月六日からバヌアツ共和国を訪問して、大統領、首相、国会議長と会談した後、我が国ＯＤＡ案件の現場等を視察した。

同月十日からは小川副団長を始め議院運営委員会理事である五議員と合流して議員団を結成、十五日までの間、オーストラリア連邦を公式訪問し、上下両院議長、議会手続委員会、外交・防衛・貿易委員会、野党自由党正副党首、豪日友好議員連盟、ビクトリア州議会上下両院議長等、多くの議会関係者と意見交換を行い、両国議会間交流の更なる深化を図るとともに、ニューサウスウェールズ（「ＮＳＷ」）州緊急援助隊への表敬訪問など行った。

二、訪問日程

十月　二日（日）　東京発

十月　三日（月）　シドニー着、同発
クライストチャーチ着
在留邦人代表との懇談会

十月　四日（火）　サットン復興院総裁との会談
レッドゾーン視察、ＣＴＶビル跡地にて献花
クライストチャーチ発、ウェリントン着
十月　五日（水）　スミス国会議長との会談
ティッシュ国会副議長との会談及び昼食会
国会審議（クエスチョンタイム）傍聴
ヘイズ友好議員連盟会長等との意見交換
十月　六日（木）　ウェリントン発、シドニー着
シドニー発、ポートビラ着
十月　七日（金）　カニアピン大統領との会談
キルマン首相との会談
ヒルトン国会議長との会談
ＯＤＡ案件視察
十月　八日（土）　在留邦人代表との懇談会
ポートビラ発、シドニー着
十月　九日（日）　マンリー市、シドニーハーバー国立公園視察
十月　十日（月）　議員団合流、シドニー発、メルボルン着
ビクトリア州上下両院議長との会談
日本人会、日本商工会との懇談会
十月十一日（火）　メルボルン発、キャンベラ着
ホグ上院議長及びジェンキンス下院議長との会談
議会教育プログラム説明聴取
上下両院議長主催歓迎夕食会
十月十二日（水）　上院議会手続委員会との意見交換
豪日友好議員連盟主催昼食会
上院・下院審議（クエスチョンタイム）傍聴
戦争記念館訪問・献花
アボット自由党党首及びビショップ同副党首との会談
佐藤大使・豪日協会共催歓迎レセプション
十月十三日（木）　両院合同外交・防衛・貿易委員会との意見交換
キャンベラ発、シドニー着
ＮＳＷ州緊急援助隊表敬訪問
十月十四日（金）　シドニー日本人学校訪問
日本商工会との懇談
十月十五日（土）　シドニー発、東京着

三、オーストラリア連邦公式訪問

１　日豪関係等について

我が国と豪州は、石炭、鉄鉱石、牛肉等を輸入し、自動車や機械類を輸出するという、相互補完的経済関係を基礎として、近年政治・安全保障面の連携も重視し、アジア太平洋地域における戦略的パートナーとして関係を強化している。

今般の東日本大震災に際しては、早くも三月十六日に豪州救助隊七十二名と救助犬二頭が宮城県南三陸町に入り、捜索・救助活動を行った。また、豪州軍Ｃ－17輸送機（空軍保有四機中三機）を日本に展開し要員・物資の輸送支援等を行った。さらに四月二十日にギラード首相が震災後初の公式賓客として来日し、同月二十三日、外国首脳として初めて被災地（南三陸町）を訪問したほか、多額の義援金、連邦議会や各州議会による支援決議など、手厚い援助・支援を頂いた。

日豪の議会間交流は、豪州連邦議会の上下両院議員団を最近四～七年の間隔で定期的に招待しており、我が国からも衆参の両院議員団が訪問していたが、平成十年に参議院の議員団が訪れて以来公式訪問はなく、豪州議会側から早期の公式訪問を要請されていた。

今回の豪州訪問は、大震災への様々な支援に対して謝意を表するとともに、両国議会の交流を更に深めることを目的とするものである。

２　豪州の議会事情

昨年八月に総選挙（下院全議席、上院約半数議席）が行われ、与党労働党及び野党保守連合は共に下院の過半数を獲得できず、労働党がグリーンズ、無所属議員の支持を得て過半数七十六議席（野党系七十四議席）を確保し、ギラード首相が再任された。

労働党は上院でもグリーンズの支持を得て過半数を確保しているが、同党は、協力の条件として「炭素税法案」の成立を要求しており（同法案は十月十二日朝に下院で採決が行われ賛成多数で通過した）、また、異論が多いという「移民法改正案」の審議も控えており、参議院代表団が訪れた週はまさに国会の山場に当たっていたため、本会議の開会ベルが鳴って議員が頻繁に出入りするなど、慌ただしい状況の中での訪問であった。このため、ギラード首相、エマーソン貿易相など政府関係者との会談は、臨時閣議等の都合で行われなかった。

３　要人との会談等

（一）ホグ上院議長及びジェンキンス下院議長との会談

ホグ上院議長は、上下両院を代表して貴代表団を歓迎し、訪問が実りあるものとなるよう祈る。議会同士の交流が大切で、アイデアを交換して学び合い、よりよい議会を目指したい。また、三月の大災害で多くの人が亡くなり、心より哀悼の意を表する旨述べた。

ジェンキンス下院議長は、同じく歓迎の意及び哀悼の意を表する。災害に対し強い決意で生きていこうとする姿に心を打たれた。議会間の交流は誠に意義が深く、本年五月訪日した際には、国会審議中継など共通の関心事を話し合うことが

できた旨述べた。

これに対し、尾辻副議長は、震災に際しては、救助隊の献身的な活動、豪州軍の輸送活動、連邦議会の支援決議、首相の被災地訪問など、大変温かい支援を頂き、日本国民は勇気付けられた。貴国との絆の深さを感じており、国会同士の交流の重要性についても全く同感である。両国を取り巻く複雑な課題に一致して対応したい旨述べた。

意見交換に移り、上院では下院議員である首相や大臣に質問できないというが支障はないのかとの質問に対し、上院議長は、上院には、首相や大臣の代役を務める上院リーダーや大臣がいるので問題はない旨述べた。

次に、両院合同で設置される一部の委員会のほかに両院が合同して行うものはあるかとの質問に対し、下院議長から、両院合同会議があり、両院の意思が二回一致しない場合に行われる両院解散総選挙のあった後、更に両院の意見が異なった場合に開かれるものであるとの説明があった。

次に、議員の公的宿舎はあるのかとの質問に対し、上院議長は、日当が支給されており、家を買う、ホテル、友人宅などどこに住むかは議員の自由である旨述べた。

翌十二日、参議院代表団は連邦議会を再訪し、両院のクエスチョンタイムをそれぞれの本会議場で傍聴した。その際、両議長から一行の紹介がなされ、出席議員から拍手をもって歓迎された。

（二）上院議会手続委員会との意見交換

上院議会手続委員会は、副議長を委員長とし、議長、与野党上院リーダー、同院内幹事等を委員とする委員会であり、上院の最高幹部が院の構成や運営手続全般について協議を行う場である。

尾辻副議長は、同行議員は議院運営委員会の理事であり、貴委員会と共通した事項を扱っている。貴議会は、現在重要法案の山場を迎えており、今朝もニュースでその模様を伝えていた旨述べた。

パリー副議長（委員長）は、当委員会は、議会内で大きな役割を果たしている。現在懸案として、クエスチョンタイムの手続改善、議員立法の審議充実、審議時間の確保、委員会制度の運営について検討している旨述べた。

（三）アボット自由党党首及びビショップ同副党首との会談

アボット党首は、豪州の与野党とも、日本との関係の重要性は十分認識している。日本はアジア太平洋地域にあってずば抜けて大事な友人だ。貿易関係、防衛安全保障いずれも重要だが、友情に基づく価値観の共有が最も重要だ。野党ではあるが、日本への支援には全面的に協力する。我々が与党になったら、更なる関係の強化を目指したい旨述べた。

ビショップ副党首は、今回の御訪問を党を挙げて歓迎する。両国の強い絆を確認する機会としたい。さきの大震災に哀悼の意を表するとともに、できるだけの支援をしていきたい。価値観、長い歴史を共有する両国の関係を更に幅広く、深

いものに強化していきたい旨述べた。

これに対し、尾辻副議長は、震災に対して本当に温かい御支援を頂き御礼申し上げる。また、原発事故では大変御心配をかけているが、全力で収束のため努力している。エネルギー関係等で日豪が協力していくことも多いと思うが、議会人同士の深い交流がその土台となる。両国関係を一層強固なものとするため御助力願いたい旨述べた。

（四）佐藤大使・豪日協会共催歓迎レセプション

同レセプションには、連邦議会上下両院議員十四人、豪日協会関係者、キャンベラ日本人会を含む約百人が来場し、尾辻副議長を始め参議院代表団の各メンバーと懇談、相互理解を深めた。また、豪州国立大学日本クラブの学生が寄附を募った東日本大震災のための義援金が日本側に贈呈された。

なお、参議院代表団は、豪州滞在中、メルボルン及びシドニーにおいて日本人会及び日本商工会との懇談会を開催し、現地の経済・社会情勢を聴取するとともに、意見交換を行った。

（五）両院合同外交・防衛・貿易委員会との意見交換

意見交換には、ダンビー委員長を始め、防衛、貿易、人権の各小委員長など十一委員が出席し、活発な議論が交わされた。

豪州側からは、大震災に対する弔意、豪州の移民・難民問題の現状、日豪貿易の重要性と委員会としての訪日希望、日豪の防衛関係強化の重要性、農業分野等における日豪の対話の必要性、日本の人口減少と移民政策の見直しの現状、若手政治家交流プログラムなど政治家間の交流の重要性などについて発言があった。

参議院代表団からは、大震災に対する支援への感謝、日豪関係の発展のために議会人交流の果たす役割の重要性、将来にわたる食糧の確保と自給率の向上の必要性、単純労働者等の移民受入れの問題点、高齢者や女性の雇用参加や雇用年齢の引き上げの実現手法などについて発言があった。

（六）ビクトリア州議会アトキンソン上院議長及びスミス下院議長との会談

アトキンソン上院議長は、当州と愛知県が姉妹都市関係にあるなど、貴国とは非常に良好な関係にある。経済関係のみならず、温室効果ガス対策、革新的技術、新サービス提供など様々な分野で協力関係を構築できるパートナーである。また、当州は、レアアース資源を有しており、更なる友好的経済関係を構築できる旨述べた。

スミス下院議長は、震災発生のニュースには衝撃を受け、世界中が悲しんでいる。被害は大きいと思うが、日本は必ず復活すると信じている。復活後もよいパートナーシップを保持していきたい旨述べた。

これに対し、尾辻副議長は、ビクトリア州両院で震災後すぐに支援決議をしていただき、州政府等から多くの励ましや義援金を頂き感謝する。我が国はエネルギーの二二％を豪州に依存しており、地球温暖化問題など海洋国家として共通の課題もある。貴州との友好協力関係を引き続き維持していきたい旨述べた。

なお、会談終了後、上下両院議長の案内により、上下両院の議場を視察した。

（七）議会教育プログラム視察

参議院代表団は、連邦議会内において、議会教育責任者より以下の説明を聴取し、意見交換を行った。また、委員会室において生徒たちが行う実際のロールプレイを見学した。その中では、無所属議員役に数名割り当て、二つの陣営がそれらを引き込もうと説得を重ねるという豪議会の現実を踏まえた設定があり、印象的であった。

豪州連邦議会の議会教育プログラムは、学校、教師、生徒を対象とし、議会に関する教育を提供している。上院に属する機関であるが、資金は両院で負担している。ここに訪れた生徒に直接対応するのに加え、資料提供など様々なリソースに予算が使われる。年間十万人（対応可能な上限）の生徒が訪れ、ほとんどが委員会室を議場に見立てた所要一時間のロールプレイに参加している。ほかに一時間の両院ツアーが伴う。プログラムの実施に際しては、参加校の選挙区の議員が協力することが条件となり、子どもたちの前で議員活動について説明する。この議員との接触が議会教育上、重要とされる。地方から参加の場合、政府から一定の補助金が出る。出張ロールプレイも行っており、二年に一度は必ず各州を訪問し、州議会関係者と議会教育に関する協議会も定期的に開いている。もう一つの教育ツールがウエブサイトで、四百ページ分の情報量を持っており、ロールゲームをすることもできる。いかに十代の世代に情報を届けるかが課題となっており、ツイッターやフェイスブックの利用、ロールプレイに必要なキットの各学校への導入促進など、様々な対策を講じている。

（八）ＮＳＷ州緊急援助隊訪問

参議院代表団は、シドニー消防署において、東日本大震災の後、現地で捜索・救助活動を行ったＮＳＷ州緊急援助隊のメンバーを表敬訪問した。

尾辻副議長からは、三月の大震災直後に貴緊急援助隊がいち早く被災地に入り、悪天候の中、精力的に活動を行っていただき心より感謝する。貴隊の仕事ぶりには被災者を始め我が国消防隊からも高い賞賛の声が上がった。現在は復旧・復興に必死に取り組んでおり、御恩は忘れない旨挨拶があった。

豪州援助隊側からは、一行の御訪問は光栄である。震災直後、被災者が自ら復興しようという強い意志を持って行動されていたことに感銘を受けた。日豪交流が一層強化されていることをうれしく思う旨挨拶があった。

一行は、被災地における消防・救助活動のブリーフを受けた後、緊急車両等の試乗視察、マクニール救助隊隊長等隊員と記念撮影を行うなど、親しく交流した。

（九）シドニー日本人学校訪問

シドニー日本人学校は、一九六九年に設立された、ＮＳＷ州教育省の認可を受けた私立学校である。シドニー市中心部から約三十キロメートルのテリーヒルズに約五万六千平米の敷地を有し、通学バスにより二百人弱の生徒が学んでいる。

参議院代表団は、ミックスレッスン（日本人学級と国際学級の共同授業）を含

む体育、理科、語学、音楽等の授業風景を見学後、福山校長、青山経営担当ＧＭから概況説明を受け、意見交換を行った。尾辻副議長は、考える力を涵養する教育方針に感銘を受けた。日豪両国にとり重要な人材育成への貢献に敬意を表する旨述べた。

四、ニュージーランド訪問

１　日・ニュージーランド関係等について

ニュージーランドの面積は日本の約七割、人口は約四百三十六万人であり、エリザベス女王を元首とする立憲君主国である。

議会は一院制であり、議員数は百二十二、任期は三年となっている。現政権は、国民党を中心とする連立政権（キー首相）であり、前回の総選挙後、労働党政権から交代した。次回総選挙が十一月に迫っている時期の訪問であり、街中には選挙ポスター、看板があちこちに掲げられていた。

日本との経済関係は、農産品等の一次産品やアルミニウムを輸出し、自動車、機械等の工業品を輸入しており、両国は相互補完的な貿易関係にある。また、人的な交流も盛んであり、姉妹都市や青少年の交流のほか観光や留学先としての人気も高く、在留邦人数は一万三千人を超えている。議会間の交流も盛んであり、衆参の議員団とニュージーランド国会議員団が交互に公式訪問している。最近では二〇〇九年四月に、今回会談したスミス議長一行が衆議院の招待により訪日している。

本年二月二十二日に発生したクライストチャーチの地震（マグニチュード六・三）は、建物の倒壊等により百八十一人が死亡する大災害となり、うち二十八人の犠牲者は日本人であった。我が国は、直ちに緊急援助隊（計三次）を送り、捜索・救助活動に当たり、現地の幅広い層から感謝の意が示された。

その後、三月十一日東日本大震災が発生したため、ニュージーランド政府も直ちに四十八名の市街地捜索・救援隊を派遣、南三陸町で活動を展開した。このほか、政府からの義援金、国会の哀悼の決議、議長や友好議員連盟会長からのお見舞い書簡など、様々な援助や励ましを頂いた。

今回の尾辻副議長のニュージーランド訪問の目的は、議会間の交流を深めるとともに、クライストチャーチ地震の現地を訪れて弔意を表し復興の現状を視察すること、東日本大震災の際に寄せられた様々な厚意に謝意を表することにあった。

２　クライストチャーチ地震現場訪問

（一）地震現場訪問

二月二十二日の地震では二か所で大規模なビルが完全に倒壊し、ＣＴＶビルでは、日本人の語学学校生二十八人を含む百十六人が死亡した。多くの地区で液状化現象が発生、インフラ網の被害を含めると被害総額は約九千七百五十億円、ＧＤＰの八％に達すると試算されている。政府は、原因究明と将来の建築基準を検

討するための「王立調査委員会」（来年四月に最終報告）を設置したほか、復興のため強力な権限を持つ「カンタベリー地震復興院」の設置などの対策を講じているが、大聖堂など市内中心部はいまだ立入禁止の「レッドゾーン」に指定されており、本格的な復旧・復興にはまだ相当の時間を要する見込みである。尾辻副議長は、復興院の本部がある「アートギャラリー」到着後、サットン復興院総裁と会談した。レッドゾーン入域の手続後、ＣＴＶビル跡地を訪問し、献花、黙禱をささげるとともに車内よりレッドゾーン内の要所を視察した。

また、尾辻副議長は、クライストチャーチにおいて、カンタベリー日本人会や補習校代表ら在留邦人と懇談し、地震後の状況等実情を聴いた。

（二）サットン復興院総裁との会談

尾辻副議長は、貴国の地震では液状化で住めなくなった土地も多いというが、移転の進捗はいかがか。また、道路などインフラも大きな被害を受けたと聞いた。我々は、復興院の取組に大変関心を持っている。強力な権限を行使する際、住民の理解をいかに得るか。日本では、原発事故対応への費用が大きな課題となる。復興院としても多額の予算が必要となろうが、調達方法はいかがか。日本はＧＤＰの三％を失い、増税も議論されている旨述べた。

サットン総裁は、クライストチャーチでは多くの日本人が亡くなり残念である。災害復旧について両国が情報共有できればありがたい。復興院は五年の時限で設立され、建物の取壊しなど強大な権限を持っている。超党派で取り組んでいるが、早急な復興着手が何よりも必要だ。現在、液状化で住めなくなった六千戸の移転が最大の問題だ。復興院のやり方が強引だと反発する市民もいるが、インフラ、道路再建は政府が行い、市中心部の建物は地震保険でカバーする予定で、民間活力の活用は今後の課題である。ＧＤＰの約一割分の損害が発生したため、今後、住民税の引上げが必要と思う旨述べた。

３　要人との会談等

（一）スミス国会議長との会談

スミス議長は、日本とは交易、投資等大事なパートナーであり、御訪問をとてもうれしく思う。こちらの地震への手厚い援助を感謝するとともに、多くの日本人学生が亡くなり、お悔やみ申し上げる。二つの建物の倒壊原因を究明している。また、日本の地震、津波の被害は想像を絶するもので、お見舞いを申し上げる。原発事故の状況、日本経済の回復、輸出の状況を心配している旨述べた。

尾辻副議長は、そちらも震災後にかかわらず、多くの救助隊を送っていただき感謝申し上げる。今復旧・復興に取り組んでおり、貴国の復興の動向を参考にしたい。原発の収束、廃炉には何十年もかかるとされる。原発のない貴国の在り方も参考にしたい。実力以上の円高が進みダメージを受けている。震災の影響はＧＤＰの三％程度だが、大きな問題は一千兆円の財政赤字である。政治の責任でこれを解消していきたいが、ポイントは消費税になる旨述べた。

（二）ティッシュ国会副議長との会談

尾辻副議長は、大震災の折にはいち早く総員の三分の一に当たる救助隊をお送りいただき、また、クライストチャーチ地震の際には日本人にいろいろ配慮いただき感謝する。日本にも一院制の議論はあるが、この機会に選挙制度改革の経緯等について伺いたい。また、来年一月に東京で開かれる第二十回アジア・太平洋議員フォーラム（ＡＰＰＦ）の会議には是非御参加いただきたい旨述べた。

ティッシュ副議長は、大震災のお悔やみを申し上げるとともに、御支援に感謝する。我が国は、二院制だったが、小さな国で人口も少なく、監督役の上院は必要ないということで一九五一年に一院制になった。一九九六年には現在の小選挙区比例代表併用制を採用した。選挙は、三年ごとに行われ、二票投票し、選挙区が七十議席（うち七はマオリ議席）、比例が五十議席であるが、基本的には政党支持により議席を配分する。超過議席が二あるが、小政党が選挙区で当選したものだ。来年一月のＡＰＰＦ総会については是非出席したい旨述べた。

会談後、尾辻副議長はティッシュ副議長と昼食を共にした後、本会議場にてクエスチョンタイムの審議を傍聴した。その際、スミス議長から紹介があり、出席議員から拍手をもって歓迎された。

（三）ヘイズ友好議員連盟会長ほか友好議員連盟所属議員との意見交換

尾辻副議長は、ヘイズ会長始め友好議員連盟の国会議員六名と意見交換した。その内容は、お互いの震災対応の御礼と両国の復興の状況、ニュージーランドが原発を持たない理由と今後の動向、日本における今後の原子力発電の行方、地熱発電等再生可能エネルギーやメタンハイドレートの活用、ニュージーランドにおける小選挙区併用制の得失、郵政民営化の状況、震災後の日本経済の行方と日本の財政問題など多岐にわたり、活発な意見交換が行われた。

五、バヌアツ共和国訪問

１　日・バヌアツ関係等について

バヌアツ共和国は、南太平洋に浮かぶ南北約千二百キロに広がる八十余の島々で構成されており、人口は約二十四万人、一九八〇年に独立するまでは、英仏の共同統治下にあった。ポートビラを首都とし、観光業及び農業を主要産業としており、特に観光客の誘致に力を入れている。貿易額は輸入が輸出の五倍強と大幅な入超状態であり、コプラ、木材、牛肉等を輸出、機械機器類、食料品、日用品等を輸入している。

日本は、バヌアツにとって三番目の主要援助国となっており、二〇〇九年度は無償資金協力約十一・八億円、技術協力約三・九億円の実績がある。また、青年海外協力隊やシニアボランティアを五十名以上派遣し、継続的な支援を実施している。両国は良好な関係を構築しており、親日的である。なお、東日本大震災に際しては、大統領及び首相からお見舞いの書簡を接受している。

大統領を元首とする共和制であり、一院制の議会は五十二議席、任期は四年と

なっている。政党は過半数に満たない十議席程度のものが複数存在し、これらが連立して与党を形作っているが、連立の組合せはしばしば変更される。バヌアツからは、太平洋・島サミット参加のため首相訪日の実績があるが、議会間の交流はこれまでなく、尾辻副議長の今回の訪問は、両国にとり初の高いレベルでの交流となった。

２　要人との会談等

（一）カニアピン大統領との会談

カニアピン大統領は、バヌアツ訪問を心から歓迎する。東日本大震災には改めてお悔やみ申し上げる。国民に私の気持ちをお伝え願いたい。貴国には埠頭改善、医療関係等多くのプロジェクトを支援していただいており感謝する。特に青年海外協力隊員は困難な状況下で社会になじみ、活躍していただき大変ありがたい。今後、人的交流を始め多くの関係を促進し、両国の関係を更に深めたい。日本からの投資も大歓迎だ。中断している両国間の青少年交流プログラムの復活も希望したい旨述べた。

尾辻副議長は、大震災の折にはいち早くお見舞いを頂き感謝する。貴国と我が国は太平洋を挟んだ隣国であり、津波対策、海面上昇による国土浸食、海流の変化による漁業への影響、台風の被害など、共通の課題に対し認識を共有し、官民挙げて様々な交流を深めていきたい。また、青年海外協力隊の活動は、両国交流の基礎ともなる草の根の交流であり、大統領のお言葉を隊員に伝えたい。また、何らかの形で若者の交流プログラムの再開を検討したい旨述べた。

（二）キルマン首相との会談

尾辻副議長は、大地震、津波に対するお見舞いのメッセージを頂き心より感謝する。島国同士、抱える同じ悩みを共有し、交流に生かしたい。経済協力等の活性化も重要だが、日本からのバヌアツへの観光客も少ないので、貴国の良いところを多方面に伝えたい。また、ボランティアなど草の根交流も大事なので、大きく発展させていきたい。今後とも両国の協力を緊密にし、首相の訪問も希望する旨述べた。

キルマン首相は、国民、政府を代表して御訪問を歓迎する。大震災に対し改めてお見舞い申し上げる。復興に向けて歩んでいかれるものと確信する。航空便の減少もあるが、逓減傾向にある日本からの観光客の増加を望んでいる。また、日本からの積極的な投資も希望している。経済協力、インフラ支援、ＪＩＣＡ、海外協力隊の活動には大変感謝している。両国の交流の場を定期的に設けて、私も是非日程調整して訪日したい旨述べた。

（三）ヒルトン国会議長との会談

尾辻副議長は、地震、原発で御心配をおかけし申し訳ない。貴国とは共通認識を持って島サミットの場などで諸課題について協議、対処してきたと思う。また、来年一月にＡＰＰＦ総会が東京で開かれるが、地域協力等の重要なテーマについ

て議論が行われることから、貴国の代表団の御参加も是非御検討いただきたい。加えて草の根交流の大切さを強調したい旨述べた。

ヒルトン議長は、このたびの御訪問を歓迎する。両国間には長い友好関係の歴史があり、多岐にわたる支援には大変感謝している。また、大震災により多くの犠牲者が出たことに心を痛めている。貴国でのＡＰＰＦ総会開催のことは承知しており、是非参加させていただきたい。両国の議会間交流が更に深化、継続するよう希望する旨述べた。

（四）ＯＤＡ案件の視察等

尾辻副議長は、国際協力機構（ＪＩＣＡ）バヌアツ支所において、バヌアツへの支援状況について説明を受けた。支所長からは、ＯＤＡ予算が縮小する中で対象の絞り込みが必要であり、「草の根人間の安全保障」として大使館認定による離島中心の小学校整備、飲料水供給などのための無償資金協力により効果を上げていることなどについて説明があった。

次に、実際のＯＤＡ案件である、エファテ島の環状道路整備事業と二つの橋の復旧事業、「豊かな前浜プロジェクト」によるヤコウ貝等の増養殖事業及びポートビラ港埠頭改善事業について、現地にてこれまでの整備状況と今後の取組について説明を受け、現状を視察した。

さらに、ＪＩＣＡ関係者、青年海外協力隊、シニアボランティア、日本人会など約二十人の関係者と懇談を行い、バヌアツの生活や日常活動の実態、今後の課題や国への要望など、貴重な現場の声を聴くことができた。

六、終わりに

本議員団は、豪州、ニュージーランド、バヌアツの各国において、いずれも周到な準備のもと、適時適切の懇切な対応を頂き、一連の要人との会談等多くの日程を滞りなく行うことができた。特に豪州公式訪問においては、連邦議会を始めとして誠意あふれる対応を頂き、議会間交流の実を上げることができた。

今回の訪問が、様々な方々の御尽力により有意義かつ実り多いものとなったことに謝意を表するとともに、我が国と訪問各国との友好親善関係の一層の深化に貢献できたものと信じるものである。

ここに末尾ながら、各国の関係機関、関係者各位に改めて深謝するとともに、佐藤駐オーストラリア大使、三田村駐ニュージーランド大使、吉澤駐バヌアツ大使を始め、各国大使館及び総領事館並びに豪州連邦議会事務局の行き届いた支援についても、ここに特記し、厚く御礼申し上げる。